フォームタイムス
THE FOAM TIMES
第2049号
2017年（平成29年）
2月15日 水曜日
発行所
㈱フォームタイムス社
本社 東京都港区新橋1-2-7(鉄和ビル)
電話 (3(5511)2291代) 〒105-0004
FAX (3(3591)2293
振替 00130-9-52154
購読料(前納) 1ヶ年30,240円(税込)

2017. 2. 15 3面

成形できる強みを

住宅断熱へ積極展開

EPS

発泡スチロール協会（JEPSA）のEPS建材推進部は、ビーズ法ポリスチレンフォーム（EPS）の断熱材普及を目的に、行政や公的機関との窓口業務、外部団体・組織等の活動への参画、また、JEPSA会員への情報提供や内部の委員会活動の開催を行っている。

EPS断熱材は、建材、パイプカバー、基礎型枠、床下断熱など多様な形状に成形できる大きな特徴を活かし、戸建住宅、集合住宅、ビルなどの建築資材、保温・保冷倉庫など断熱材としての展開に大きな役割を果たしている。

JEPSAでは、平成25年（2013年）に会員から提供された断熱建材用途の試験体の製造直後から90日後までの熱伝導率（λ）の経時変化を公的試験機関で測定したが、3年経過後の平成28年（2016年）に保管しておいた試験体の熱伝導率を同じ公的試験機関で測定し、製造後3年後までの性能の変化を調査した。その結果、性能（熱伝導率）の変化は極めて少ないことが実証された。この結果は近々技術資料としてまとめて公表する予定である。また、主なEPS断熱材関係商品は次のとおり。

木造建築物

▽瓦下地材＝異形の瓦を確実に受け止める断熱兼用下地材。

▽在来木造住宅用EPS成形品充填断熱材（壁・床用）＝間柱やネダの間隔にフィットする充填断熱材。

▽木造住宅外張り断熱材＝波打ち現象を緩和し通気動線が簡単に施工できる。

▽金属屋根下地材＝スレート屋根の上から葺き替える工法で、既存住宅の断熱性能もアップし、雨音も解消する。

▽通気層付き棟包み＝換気機能を備えた軽量乾式棟工法。

―などEPS成形断熱材がある。

RC造建築物

▽伸縮目地機能付屋根断熱材＝屋根外断熱目地取付台を一体化した断熱材。

▽外断熱工法＝結露防止や防カビ、躯体保護等国土交通省認定の工法。

▽型枠兼用断熱材＝合板に替わる軽量で施工性に優れた型枠材で、強化シートや釘打ち可能な補強材を組み込んだもの、スラブ、蓄熱槽、スリープ用に特化した工法がある。

▽断熱材組み込み耐火壁パネル＝耐火性や耐衝撃性、遮音性にも優れた、溶接金網一体型パネル。

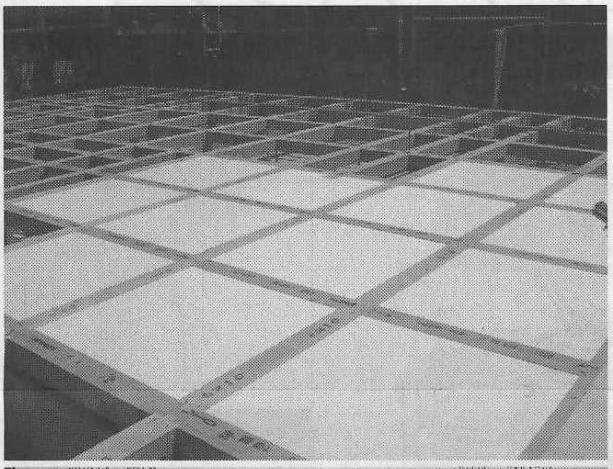
▽スカート断熱材＝凍結深度を軽減して基礎を浅くし、基礎工事のコスト低減を可能にする合理化工法専用製品。

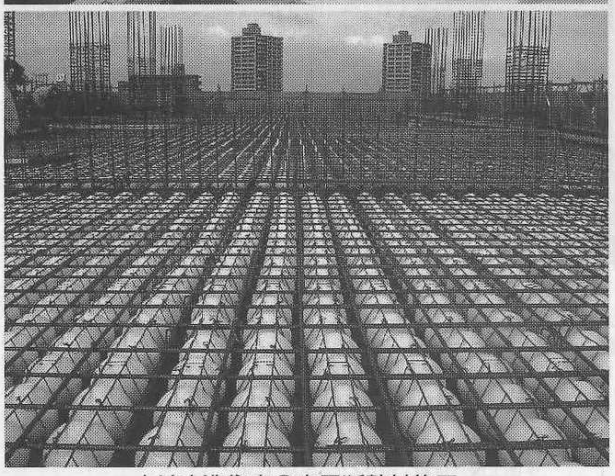
▽蓄熱槽用型枠兼用断熱材＝ベニア合板のせき板代わりに使用する製品で、工期の短縮、省人化が可能。

▽瓦下地材＝屋根の軽量化と断熱性・防水性・耐久性を高める外断熱工法の和・洋瓦下地材。

▽現場打ち用ボイドスラブ型枠材＝中空スラブ構法用ボイド材。

▽基礎断熱専用型枠兼用断熱材＝ブロック型、パネル型があり、基礎と断熱工事が同時に施工できる。





上は木造住宅の床用断熱材施工、
下はRC造住宅用の施工